

## (2) 岐阜県立加茂高等学校における実践

### <授業実践>

#### ①授業実践に向けての構え

- ・中学校での「聞く・話す」を中心とした活動的授業が展開されているのを受け、従来の「読む」「書く」偏重学習を是正し、4領域にわたりバランスよく学習活動を仕組み、生徒の実践力を高める。
- ・生徒がより仲間と積極的にコミュニケーションを図る活動に取り組む意識の高揚を図るとともに、コミュニケーションを図る活動が容易にできる環境作りに配慮する。

#### ②第1回授業交流研究会

【日時】 平成16年 6月14日 (月)

【公開授業】

・単元名 'CROWN English Series I' Lesson 3 "What is Our Greatest Invention?" Section 1

・授業学校・学級 岐阜県立加茂高等学校 1年1組

・主な提案内容

- ①50分の中で4技能について学習する機会の設定
- ②生徒が主体的に取り組むためのスクランブル活動中の指導
- ③コミュニケーションを図る活動の機会を設けるためのペア・ワーク、グループ・ワークの利用



【授業研究会】

- ・ほぼオールイングリッシュで授業がなされる中で、生徒が楽しそうに活動できた。解らない英単語についてはリフレーズする活動が見られた。
- ・活動内容が豊富である中で、てきばきと進められ、ペア・ワーク、グループ・ワークが頻繁に行われ、主体的にコミュニケーションを図る活動に取り組む姿が見られた。
- ・コミュニケーションを図ることが中心なので、英語を不得意とする生徒へのケアを如何にすべきが今後の課題である。

#### ③第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年11月 1日 (月)

【公開授業】

・単元名 Listening material recorded in the UK(自主教材)

'CROWN English Series I' Lesson 7 "Not So Long Ago" Section 1

・授業学校・学級 岐阜県立加茂高等学校 1年1組

・主な提案内容

- ①英語学習の早期からより実際の英語音声に慣れる事を狙いとした自然な英語音声の利用
- ②リスニング活動をより容易にするための、プレリスニング活動で内容に関しての類推を助けるペア・ワークの活用
- ③リスニングでも Words Per Minute を意識させることにより、1分間に150語以上の速さの発話を聞き取る力の育成



## 【授業研究会】

- ・リスニング教材がやや難解なものであったが、プレリスニング活動により、内容の概要把握が容易になった。最初は、プレリスニングの質問の意図がよく理解できなかったが、英語音声を聞く中で徐々に理解できるようになった。リスニング活動も段階化することで、より達成感が得られる活動になる。
- ・新出英単語の確認作業において、コロケーションにもとづいた英作指導やペア・ワークがなされた。中学校の指導にも取り入れてみたい。
- ・学習意欲を如何に活性化させるかが、生徒の語学習得に必要であり、職員の情報交換・協力体制を整備し長期的ビジョンに立脚し、対応する必要がある。その意味で中高連携体制が不可欠である。



## <グローバルスタンダードによる英語力分析調査>

- ・トータルスコア1年生40名の平均点が362点で、2年生41名の平均点が386点であった。各分野ごとの学年平均点の差はListening Comprehension 2.1、Structure and Written Expression 3.2、Reading Comprehension 1.8である。今の時点で1年生はまだ文法や英文構造に習熟していないことが窺える結果となった。400点を越えた2年生は15名がおり、ほとんどの2年生がスコアを昨年よりも伸張させた。中には1年次よりも80点伸びた生徒もいる。本事業による継続的指導結果の一つの現れととらえたい。

## <学習環境の充実>

活 動	効 果
・ <u>ペア・ワーク、グループ・ワークの活用</u>	・ 気楽にコミュニケーションを始める姿勢が身に付く。
・ <u>ウィークリーリスニングテスト</u> ：副教材を利用し週の初めに約10分間実施している。	・ リスニングへの集中力を高める。
・ <u>教科書の内容に沿ったTTの実践</u> ：英Iのレッスンを扱うTTを週1回行う。1課の内容を全てTTで実施した場合もある。	・ 教科書の内容の発展的学習をする。 ・ 単発的な内容ではなく、テキスト内容と連携したTTで内容を深めることができる。
・ <u>定期考査リスニングテスト</u> ：定期考査の英I問題で15%をALTの手作りリスニング問題を校内放送で出題する。	・ TTでの授業への真剣な取り組みをさせる。 ・ リスニングへの意識を高める。
・ <u>英語通信発行</u> ：英語の雑学や、テスト情報やテスト結果の考察などを掲載する。	・ 多面的な語学学習をする。
・ <u>英字新聞利用</u> ：学校で定期購読している'Japan Times'の見出しや写真説明文などを利用し英語通信や授業で扱う。	・ より自然な英語を提供する。 ・ 見出し文章の省略の仕方に慣れる。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>ボキャブラリーコンテスト</u>：同質6種類の英単語25問準備し、年2回実施。1級80%以上正答者が51名から81名に増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語彙力を増強し、多様な表現法に役立てる。</li> <li>・ 語彙力をつける学習方法にも関心を持つようになる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>DVDによる映画利用</u>： 例) テキスト'Harry Potter'の課を利用し、実際の映画をDVDキャプションで発話内容を確認しテキストと映画の違いを見つけさせた。また、スクリプト利用し、寸劇をさせる活動も実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日英のキャプションを利用しリスニング力増強をする。</li> <li>・ 映画の英語音声のリズムやアクセントに注意して発話することの重要性に気付かせることができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>中学校教科書研究と独自ブリッジ課題作成</u>： 中学校テキストの内容復習プリントを新入生に配付し課題とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学英語の総復習を新入生にさせ、高校での英語学習への円滑な流れを作る。</li> </ul>

## <成果と課題>

### 【成果】

- ・ 中学校で「話す」「聴く」活動に力点が入り他の領域がおろそかであるとか、高等学校で「読む」「書く」指導が中心でありコミュニケーション学習がなされていないというお互いに一方的な思いがありがちである。この連携事業により双方の学習活動の場を直接見て研究し、交流会で問題点を確認しあうことにより、それぞれが従来の固定観念を捨て、新たな視点で相互理解できる機会となった。生徒の語学能力育成を目指す上で、大変有意義であった。
- ・ 実際の授業参観で、中学の授業が「聞く・話す」を積極的に取り入れ、とても活動的であることがわかった。読解や文法から理解するのではなく、場面設定の中で相手を替え、繰り返し伝えることで英語力を伸ばしている。生徒が意欲的に学習していることがよく理解できた。

### 【課題】

- ・ 高等学校では学年が進行するにつれ、授業でのコミュニケーションを図る活動が減少する傾向がある。3年次の難解な英文内容でも、その内容に基づき「話す」「聴く」の授業展開ができるようにすべきである。今後職員の共通課題として研究する必要がある。
- ・ 中高での授業時数が減少してきている中で、以前にも増して中高6年間で身につけさせたい英語力を考える必要がある。個々の生徒の力にもよるが、どの時期に最低限どのような内容を定着させたかなどを、中高両方で考え授業に生かしていくとよい。この点を踏まえ、各校がシラバスの研究とその公開をすることが必要ではないか。中高それぞれが指導内容を明確にし、生徒達が頑張り続けられれば、6年間でどのレベルにまで到達できるかを示すことができるものと思われる。
- ・ 多様な高校がある中で中学校と多様な高校が連携をとる困難さもあるのではないかと。恒常的な連携を今後どのように図るのかを考える必要がある。